

果樹試験場の取り組み 落葉果樹研究担当

落葉果樹研究担当では、佐賀県の落葉果樹の主要品目であるナシ、ブドウ、モモ等を中心に、施設や露地栽培における高品質果実の安定多収生産、省力・軽労化をめざした技術開発を行っています。現在取り組んでいる主な課題は下記の3つです。

1. 佐賀県に適したニホンナシ苗木生産システムの構築を目指した優良苗育成技術の開発

これまで佐賀県内のナシ栽培では、‘ヤマナシ’を台木とする苗が多く利用されてきましたが、‘マメナシ’や‘ホクシマメナシ’を台木として利用することで、樹の生育が良好になる場合があることがわかりました。しかし台木品種が異なると苗木の生産方法も変わるため、‘マメナシ’や‘ホクシマメナシ’に合った苗木の生産方法を明らかにする必要があります。そこで、この課題の中では台木の種子の獲得から出荷までの過程について検討しています。



2. 高品質・収量2倍をめざしたシャインマスカット“2段仕立て法”の開発

近年消費者から人気が高い‘シャインマスカット’は、着色不良の心配がなく樹の生産力も高いため、生産者にとっても魅力的な品種です。しかし、ブドウは1樹に対して着果量が多過ぎると糖度が高くならないため、品質の高い果実を生産するためには着果量を制限する必要があります。そこで、園内の樹の数を増やして、高品質を維持できる着果量を守りながら収量を増やす“2段仕立て法”の開発に取り組んでいます。この仕立て方では、ブドウの房を整えるための管理を肩より低い位置でできるため、肩を上げて行う慣行の仕立て方より楽に作業ができるメリットもあります。



3. 果樹等の幼木期における安定生産技術の開発

近年、県内のナシ園において、細菌性のさび色胴枯病という病害が発生しています。この病害では、樹の幹から赤い樹液が漏れ出し、さび色に変色する症状が発生します。果実の安全性には全く問題ありませんが、この病害が発生すると樹が衰弱し、症状が進行すると枯死に至ることもあるため、生産者の経営を脅かします。これまでの調査から、樹の土壌環境の悪化が病害の発生に関与していることが考えられるため、健全な樹を育成するための土壌改良方法を中心に対策技術の開発に取り組んでいます。

